



自立と甘えの間に揺れ動く2歳児

受容・共感

～したかったんだね
わかったよ



でもね・・・

受け止めて切り返す

→幼児期の第二の
自我へとつながる

じっくり思いを聞き、子どもが
自己復元できる「間」を大切に

ぶつかり合いの場面での保育者の役割

- ・「つもり」を読み取る＝子どものことば（思い）を聞く
→わかってもらえた実感
- ・「つもり」と「つもり」をつなぐ仲立ちをする
→相手にも思いがあることに気付いていく

気持ちをコントロールする力や、思いを言葉
で表現することにつながる

信頼できる大人に支えられて、人との葛藤を
切り抜けることを知り始める

ビデオを見て、感じたこと、考えたことを話し合う



バスごっこをしている場面でAと一緒に遊びたいBと、先生を独占したいA。お互いの思いがすれ違う様子を保育者が仲立ちしている。



子どもの姿から

- ・自己主張できている。保育者に自分の思いをしっかりと表現していて、信頼関係ができています。
- ・ケンカをしながらも、相手の足に触れていて、一緒にいたい思いが伝わってきた。
- ・思いが行き違っても、それぞれが保育者に思いを受け止めてもらって気持ちを切り替えていた。

保育者の 関わりから

- ・子どもの話を聞くときに、保育者の主観を押し付けていなかったのが良かった。
- ・保育者が子どもの言葉を最後まで聞いて、「ちょっとまってね」と待たせることがなかった。
- ・保育者も遊びに入っているが、子ども主体で遊べるようにしていた。
- ・時間が掛かってしまうことに焦らず、ずっと穏やかに共感、受け止めをしていた。



環境について など

- ・遊びのイメージが広がりやすいアイテムを置いていた。
- ・ビニールテープで仕切ったり片付けの場を写真で掲示したりと、子どもにとってわかりやすい環境になっていた。
- ・今の子どもの姿を捉えて環境設定をしている。

グループで話し合った
ことを発表しました

事例を通して、見立て遊び、つもり遊びができる環境設定の大切さや、子どもの思いをじっくり受け止める保育者の関わりについて学びました。グループで話し合う中で自分とは違う視点からの気づきもたくさんありました。

2歳児保育で大切にしたい子どもの姿

- ・それぞれの発達状況にあった遊び方を楽しむ姿
- ・少し背伸びをして挑戦しようとする姿
- ・保育士や友達と一緒に遊ぶ楽しさを経験する姿

心が動けば体も動く
「やってみよう」と夢中になって遊ぶ

- ・一人一人がイメージを自由に表現する姿
- ・遊びの中で友達とイメージを共有したり、思いをつないでいく姿

イメージの世界を広げて
ごっこ遊びを楽しむ

- ・ぶつかりあいながら相手の思いに気づく姿
- ・まねっこをする姿（関心のあらわれ）
- ・信頼できる保育者に気持ちを受け止めて（代弁して）もらい、支えられて葛藤を切り抜け、自己復元する姿
- ・心地よい友達関係へとつながる姿

自己主張のぶつかり合いと、
「まねっこ」で広がる共感

大切にしたい保育者のかかわり

依存しつつ自立に向かう姿に丁寧に向き合う

- ・安心して依存できる(甘えられる)大人がそばにすることで、子どもは安心して自立への第一歩を踏み出せる
- ・まわりのモノや人とのかかわりの中で、願いやあこがれをふくらませて心が動くようにする

やってみたい!

こうしたい!

あんなふうになりたい!



イメージの世界が広がるように

- ・「みたて遊び」「つもり遊び」が豊かになり、本物ではなくても、目の前になくても、イメージを広げて楽しむようにする

イメージが広がるような素材や道具を用意する



「みたてること」や「~のつもり」が豊かになるような魅力的な経験ができるようにする

- ・心惹かれるモノやできごとを再現して、簡単なごっこ遊びを保育者や友達と一緒に楽しめるようにする

友達とイメージを共有して言葉でやりとりする楽しさを味わえるよう仲立ちする



安心できる大人との関係の中で自分の思いを出せるように

- ・「~して」という要求に込められた意味を考える

行為への欲求

~してほしい

自我の欲求

気持ちをわかってほしい
尊重してほしい



受け入れられないと激しく泣いたり、だだこねをするのは、単に要求が実現されなかったというだけでなく、**自分が尊重されなかった**とを感じるから。

~したかったのね、わかったよ



自分の思いが伝わった、尊重された

受け止め

子どもは「自分の気持ちを切り替えやすくなる」



切り返す

気持ちを切り替えられるような促しをしたり、保育者の思いを伝える

こうしてみる?
これならどう?



「友達と一緒に楽しい」~友達と心地よくつながる経験を

- ・子ども同士のつながりを支える
- ・ルールは何のためにある?(例:おにごっこ)

2歳児はルールをまだ完全には理解できない



大好きな保育者との信頼関係を基盤に、わかってもらえたという体験を積み重ねる

→子ども同士の関わりへと広がる

先生に追いかけるのが楽しい



理解度や楽しみ方は様々

みんなで走る雰囲気楽しい



みんなで遊んで楽しかった!



またやりたい!

ルールは「守らせる」ためではなく、友達と一緒に遊ぶために守った方が楽しいという実感から守ろうとする(守りたいと思う)

受講生の報告書より

・同じ条件ではないからできないとマイナスに捉えず、我が園、我がクラスなりの工夫をして、よりワクワクする遊び環境を作っていきたいと感じた。特にごっこ遊びをさらに盛り上げていける環境(小道具の工夫)を即実践していきたいと思う。子どもの興味は日々移り変わっていくので保育者の行動力も必要だと思う。子どもたちのために頑張りたいと思った。

・受容と共感、その後保育者の思いを伝えるという丁寧な対応がとても大事だということを確認しました。解決しなくてもいいんだ、折り合いをそれぞれつけていく途中なんだと、少しほっとした気持ちもありました。

・今日の研修をうけて、葛藤に寄り添って待つことの大切さを改めて感じました。保育者に支えられて子ども自身が葛藤を切り抜け、安心して自己発揮できるように、受け止めていきたいです。